

第39回Children Firstのこども行政のあり方勉強会

こどものWellbeingな人生を支える ～飛騨市の医療・福祉連携型登校支援～



HIDA CITY

飛騨市

2024年6月17日

岐阜県飛騨市長 都竹 淳也



1 飛騨市の概要

飛騨市の概要

- ・ H16.2.1 に、古川町、河合村、宮川村、神岡町の2町2村が合併。
- ・ **岐阜県の最北端**に位置し、北は富山市、南は高山市、西は白川村。
- ・ **人口：22,107人・高齢化率：40.08%** (R6.1.1時点)



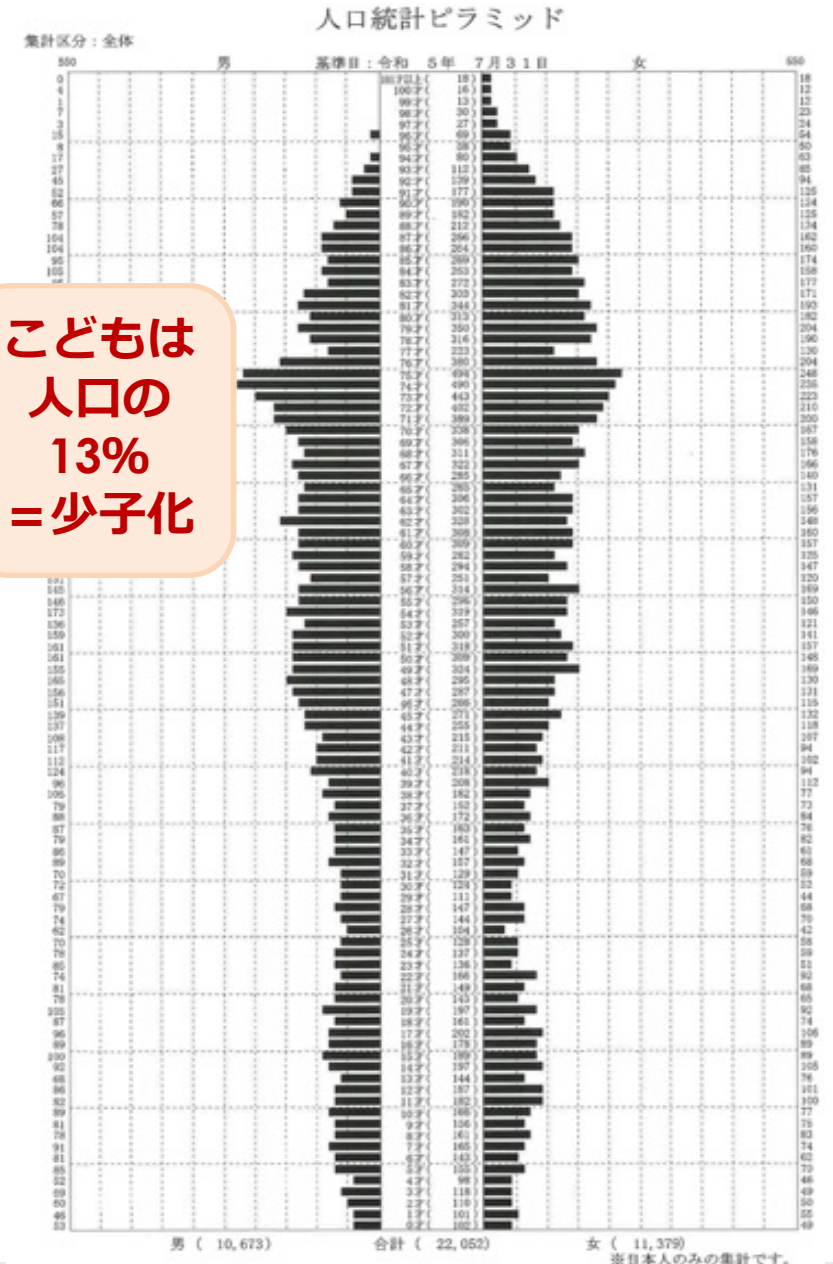
市の面積 792.53平方キロメートル
全体の約93%が森林

飛騨市の人口ピラミッド

R5.7.31現在

年代区分			人数 (人)	
0~3才	4年	乳幼児期	431	2,915 (3千人) 13%
4~6才	3年	就園期	396	
7~12才	6年	小学期	1,017	
13~15才	3年	中学期	530	
16~18才	3年	高校期	541	10,206 (10千人)
19~24才	6年	青年期	928	
25~59才	35年	実年期	7,725	46%
60~64才	5年		1,553	
65~69才	5年	老年期	1,489	8,931 (9千人) 41%
70~74才	10年		2,062	
75~84才	5年		3,258	
85才以上			2,122	
合計				

内、外国人209人 8,695世帯



こどもは
人口の
13%
= 少子化

飛騨市内 保育園・小中学校入園者・児童生徒数

保育園名	公私	所在地	未満児			以上児クラス年齢			合計		
			0才	1才	2才	3才	4才	5才			
増島保育園	私立	古川町	41	5	17	19	119	35	38	46	160
宮城保育園	公立	古川町	31	3	14	14	58	18	14	26	89
さくら保育園	私立	古川町	39	4	18	17	93	29	29	35	132
河合保育園	公立	河合町	7	0	3	4	11	4	1	6	18
旭保育園	公立	神岡町	0	0	0	0	44	14	13	17	44
双葉保育園	私立	神岡町	37	2	16	19	63	18	18	27	100
合計			155	14	68	73	388	118	113	157	543

R5.8.1現在

ざっくり

保育園 500
小学校 1,000
中学校 500

発達特性の強いお子さん
も、市で全部把握できる
範囲の母数

	学校名	児童・生徒数							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	支援級	
小学校	古川小学校	418	56	60	71	74	55	73	29
	古川西小学校	256	31	35	44	39	45	53	9
	河合小学校	28	4	5	2	6	6	5	0
	宮川小学校	7	2	2	0	2	0	1	0
	神岡小学校	262	39	48	39	43	38	39	16
	山之村小中学校	10	0	2	1	4	1	2	0
	飛騨吉城特別支援学校	8	3	0	0	0	2	3	0
	合計	989	135	152	157	168	147	176	54
中学校	古川中学校	388	107	123	143	-	-	-	15
	神岡中学校	135	45	35	52	-	-	-	3
	山之村小中学校	5	0	2	3	-	-	-	0
	飛騨吉城特別支援学校	7	3	1	3	-	-	-	-
合計	535	155	161	201	-	-	-	18	
小中児童生徒数総計		1,524	R5.4.1現在						

2 飛騨市のこどもの成長・発達等への支援

～不調の予防と不調になったときの対応の体制～



飛騨市のこだわりポイント

- 身体、心、社会性の3面からその子の特性や適した環境を**専門的視点**で捉え、必要な支援の見立てを行ってアプローチしていくこと
- 医療系**専門家**が随時きちんと関われる支援体制をつくること

学童期の親子のメンタル不調の「予防」につながる乳幼児期のこどもの育ち支援

1 産前産後～乳児期 (中堅・若手のやる気に満ちた地元開業助産師)

親の精神的・肉体的な安定への支援による愛着形成

- ・ 24時間365日Lineで助産師とつながれる「MY助産師制度」
- ・ 週2日助産師がいる自由な集いの場「にこここルームまるん」

2 乳児期 (群馬の伝説の保健師)

こどもが生活しやすいからだをつくり、自分らしく生きる力を育む

- ・ 生きていく力の基礎は新生児から...「身体調和支援」の展開
独自メソッドのマッサージや体操を通じ感覚を育み、バランスや筋肉の緊張を整え、感覚が入力しやすい、動かしやすい、生活しやすい身体づくりを助けます。

3 乳児期～幼児期 (スーパー作業療法士)

こどもの特性から将来の姿をイメージしてその子の強みを明確に親に返す。 ～親子の関係づくりを促進～

- ・ 7カ月児相談
- ・ 乳幼児遊びの広場
- ・ 保育園訪問

作業療法士による
乳幼児の強み見立て

心身のことがわかる専門家による学校教育現場支援

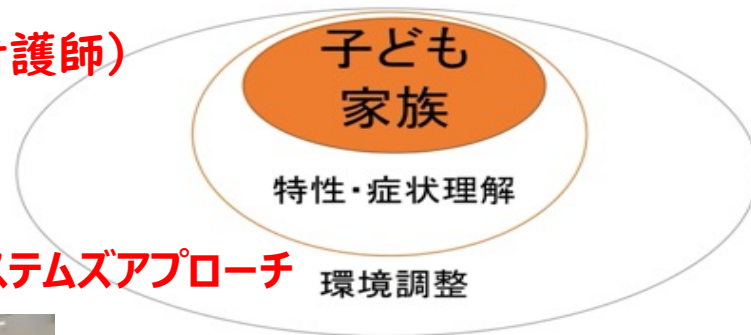
● 飛騨市こどものこころクリニック (児童精神科医、臨床心理士、看護師)

市直営児童精神科診療所

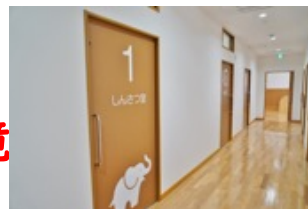
- ▶ 児童精神科の治療目的はソーシャルワーク
- ▶ 教育への側面的支援
- ▶ 行政がやるべき医療

こどものこころ
クリニックの
治療アプローチ
イメージ

システムズアプローチ 環境調整



「学校は、こどもが育っていく生活の中で、最も大きな影響を与える環境
(当院院長のことば)」



薬物療法

トラウマ治療

SST

PT

地域・支援機関との連携

● NPO法人はびりす (作業療法士、言語聴覚士、公認心理士、看護師、保育士)

学校作業療法室の設置

すべてのこどもにかかわる

- ▶ 個別支援 こどもが困ってることを自分で解決する作戦を一緒にたてて実践・改善
- ▶ 集団支援 自分や友達の個性を知る授業。多様性理解。こどもたちの関係性を良くする環境調整
- ▶ 教員、保護者支援 相談を受けこどもの観察から心理検査等見立てをし、対応法を提示
家庭内の困難にも対応。学校と家庭の連携サポート。教員・保護者への研修実施。



先生は学習を教えるプロ、学校生活に困難を抱えるこどもの困難解決は心身社会性支援のプロの作業療法士に

生きづらさ、学びづらさ

教員の負担軽減

5 思春期

自身を理解し、苦しい時も助けを求められることを教える

- ・精神科医・小児科医を顧問医師として市で委嘱(国の研究班でこの健診を組み立ててきたスキルある医師)

「思春期健診」を今年度から検証実施します。

医療者がひとりのこどもの全体をじっくりみて話を聞く健診の試みは全国でも初めて

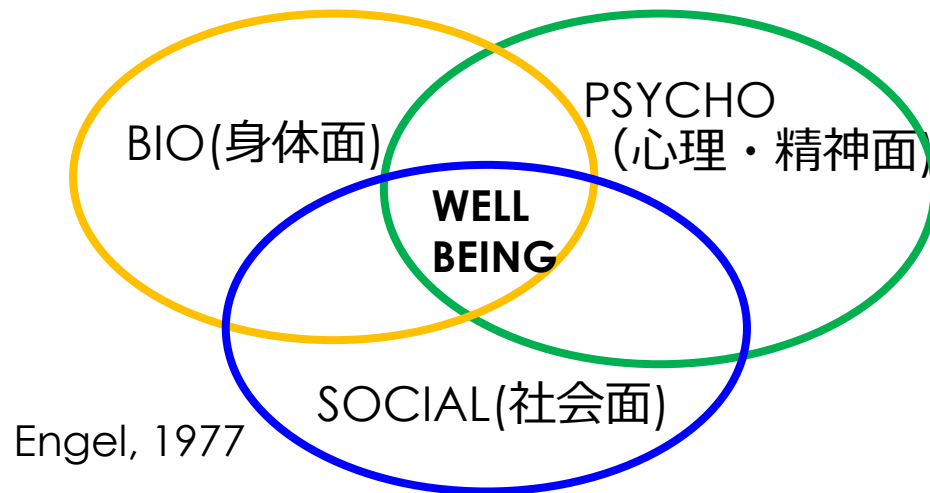
この健診を通し

「支援希求力を身につけてほしい」

悩みごとが生じても早く医者に相談や助けを求められるということを知る。

「自分自身のことをしっかり知ってほしい」

自身の健康状態や特性を知り、社会にでて困難が生じても予防してほしい。



大人になる前の段階で、
身体面だけでなく、
心理的・精神的状態や社会性の状況など
バイオサイコソーシャルの視点で
自身の健康状態を確認
自分自身の特性のメタ認知も明確にしておく

6 成人期から老年期まで（幼少期からの継続も含め）

全世代を貫くバイパス機能

幼少期から老年期に至るまで市民の成長、発達、人生のウェルビーイングすべての過程にかかわる
おおよそどんな困り事も受け止めて、各専門機関との連携で支援を進める

地域生活安心支援センターふらっと

母体は発達支援センター（専門性のない）

事務職のセンター長（福祉課長兼務）と係長、それに保育士が相談員としていただけの一般的な体制だった。
ここをしっかりと専門性のある発達支援センターに強化することを目指し、体制強化に取り組み始めた。

- ・H29 **専任の発達支援センター長配置**（県児童相談所の所長退職者を任用）
学校訪問相談員（教員OB）配置
- ・H30 学校訪問相談員（教員OB）増員
保育所等訪問支援たち 開始 ふりーすぺーす（生きづらさを抱える人の居場所）
PTによる学校授業観察、体幹・姿勢等の改善への助言を始める
- ・R1 **OTを配置し、専門相談を開始** →生活への適応性をよくするOT相談会等
公認心理士、看護師を配置 ※児童生徒の発達検査、心理検査を学校で行うようになった。
「放課後等デイサービスきゃつち」開設（通級児等を対象としたOTによる読み書き支援）
- ・R2 OTによる専門相談を核にした「総合相談窓口」を設置

形だけつくって、看板掲げ、専門的なバックのない中でただ対応しているだけでは意味がない。

専門性が発揮できるようになってきた発達支援センターを、 生まれてから高齢に至るまで全世代に関わる総合的な支援センターに改組

・R3 地域生活安心支援センター「ふらっと」を市組織の単独課として設置

・全世代、また障がいに限らず生きづらさを抱える方、悩める支援機関等に対しても

OT等による「専門相談」を強みとしたセンターとして始動。[相談比率]こども:大人=7:3

《ふらっと（福祉側）に入ったこどもの相談》

こどもの学校行き渋り相談では学校でのこどもの様子をOTと見に行ったりする。

→OTが学校に常駐して直接対応できたらすべての子に早い対応が可能になると強く考えた年度。

・R4 総合福祉課を新設し、その課内室として「ふらっと」を再設置。

・生活困窮などを担当する社会福祉係と分けの無い対応を可能にし、急迫対応も一元化により迅速化

・訪問相談員を配置し、アウトリーチを開始する。[相談比率]こども:大人=5:5

福祉サービス支援が学校の中に包含された

モデル的に大規模校の古川小学校に月1日OTが終日駐在して、OTが各先生たちから伺ったさまざまな困難を抱えるこどもの様子を見て、見立てたことをもとに、その対応を本人や周りのこどもたちや先生方に直接教示

→ 学校から入る相談が減る。効果を実感。 → 学校作業療法室として市内全校へ広げる方針を決定
「放課後等デイサービスきゃっち」は学校の中でより効果的に行える!そこへ注力するため、事業所廃止。

・R5 ふらっとの出先、アウトリーチ拠点として「ふらっと+」を

・地域生活支援拠点コーディネート、アウトリーチ活動を本格化、支援手法の開発の概念を立てて支援ラボ事業を開始

・**学校作業療法室を市内全校で月1日展開 → R6から月2日に拡充**



3 飛騨市における不登校への対応体制

飛騨市の不登校・不登校傾向の児童生徒の状況

1 不登校・児童生徒数

全国平均より若干少なめ

1000人当たり不登校児童生徒数 (R4年度末)

	全国平均	飛騨市
小学校	17人	15人 (全国の88%)
中学校	60人	47人 (全国の78%)

不登校児童実数 (年度末現在)

	R4年度	R5年度
小学校	15人	→ 19人 (対前年1.26倍)
中学校	26人	→ 37人 (対前年1.42倍)

R5年度	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		61人	→	+3人	+5人	+9人	+9人	+6人	+10人	+5人	0人

※4月新たな学年、気も張ってがんばれる子が多いが徐々にエネルギー切れに。
夏休みを経て生活の乱れや宿題がこなせなかったなど9月から再び不登校が増える。

2 数の経年推移

小学校 全国並みの上昇傾向
中学校 全国より少し少ないが同じ上昇傾向

小学校はR1年度に対前年の約2倍に急増
中学校はR2年度に対前年の約2倍に急増
※R3年からは小中とも毎年過去最高を更新中

全体的な経験不足・
コミュニケーション
不足=過敏な子・保
護者が目立つ

コロナ禍を機に大き
く増加

R4年の対H27年比 (7年間で)

小1,2	5倍
小3,4	4倍
小5,6	3.5倍
中学校	2倍
高校	1.3倍

低年齢化

3 不登校要因

	学校要因	家庭要因	本人要因
小学校	12% ※内、決まり等をめぐる問題7%	29% ※内、親子の関わり方20%	59% ※内、無気力・不安50%
中学校	30% ※内、学業不振14%	19% ※内、親子のかかわり方10%	51% ※内、無気力・不安44%

(R5年9月時点)

※1人複数の原因をカウント

複数原因60%
単一原因40%

本人特性や家庭状況が本人に与えている影響が大きい。

学校のみでは対応できない、学校では介入できないケースが多い。



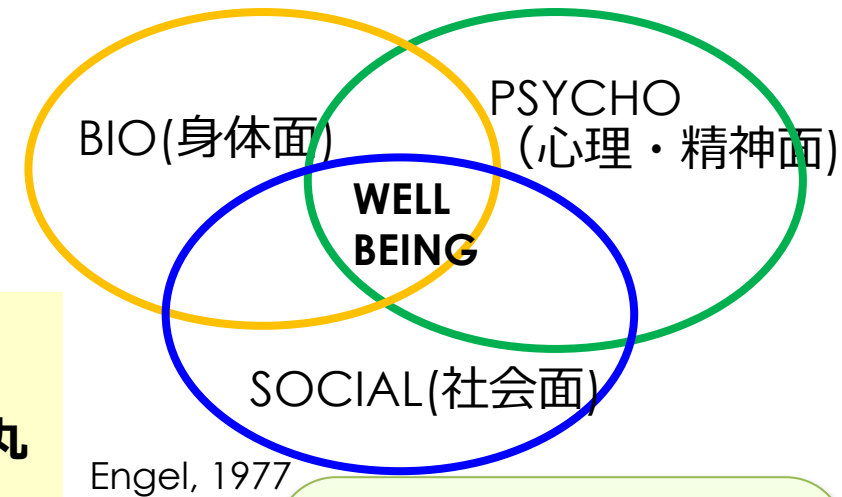
**不登校対応には「医療的視点」も持ちながら
「福祉的、社会的な介入」の必要が生じているということ**

飛騨市の不登校対応の特徴 ～ 「作業療法士」 の教育への介入体制の構築

心身機能の専門家でありながら、生活に着目したセラピストであり、心身機能にかかわる困難、各自が望む生活の困難を超えられるよう周りの調整や本人への心身機能・行動への支援を行う点でまさに「**バイオ・サイコ・ソーシャル**」に1人でトータルにかかわれる専門家

不登校やメンタル不調のこどもや親御さんに対応していく場合、この3つの面からその子やその周りの人達ははじめその環境をアセスメントし、調整アプローチしていく必要がある。

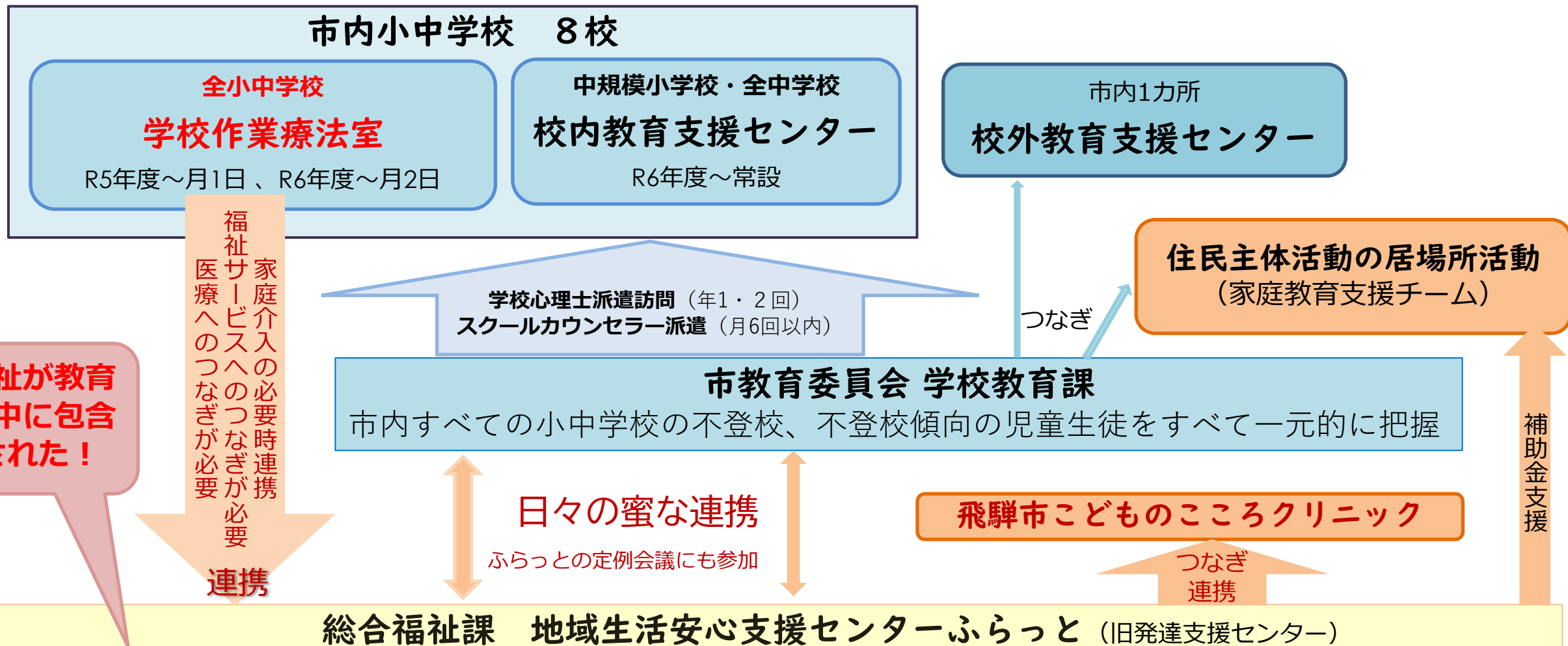
- ▶ **児童精神科医** クライアントの環境調整が治療の本丸 (システムズアプローチ)
→ **診察室での家族、学校等の環境調整指南。**
- ▶ **作業療法士** クライアントの生活現場における見立てからの支援が本丸
→ **家庭、学校、職場どこでも入っていける。**



作業療法士は、心身のことわかり、状態に応じた調整をしていける上で、どの社会現場でも直接踏み込んでいける。環境調整から本人支援までトータルの視点で対応できる。←ここは着目すべき職能

作業療法士は、病院だけではなく、社会や地域に飛び出してその職能をフルに発揮することが期待される。

飛騨市の不登校対応の体制



福祉が教育の中に包含された！

学校作業療法室の設置によってそれまでふらっとで学校と連携していた活動を福祉側で行う必要がなくなった。

①放課後等デイサービスキャッチ（読み書き支援）の廃止、②学校巡回訪問員の活動の大幅縮小、③学校からの相談の激減



4 飛騨市における 福祉的不登校対応の事例の紹介



児童相談の事例

～児童のメンタル不調からの登校渋りに対応～



① 特性理解によりうまくいった事例



運動神経はいいのに、サッカーで活躍できないBくん

- ・行き渋りがあってふらっとに相談にきたBくんの母。学校では読み書きが苦手ということだが、小さいころから好きだったサッカーでつまづいているという話になる。
- ・走るのも早く、ボールを投げること、蹴ること、運動は全体的に目立つほど得意だったため、サッカーを始めてからも期待されていた。
- ・しかし、試合になると、とたんにパフォーマンスが落ちる。監督からも怒られることが多くなり、あんなに好きだったサッカーへのモチベーションが落ちてきた。
- ・意欲が低下してきたことで、もともと学校（勉強）は好きでなかったこともあり、行き渋りが出てきた。
- ・先生は学習がうまくいって行き渋りがなくなればと思ってみえるが…

- ・ Bくんの乳幼児期は、色や順番を覚えることが苦手だった。動く遊びは大好きだが、体操や遊戯はあまり好きではなかった。そのような過去のエピソードも聞きながらOTの見立てを開始。
- ・ スクリーニングやWISC等の検査もを行いBくんの得手不得手がはっきりする。Bくんは空間認知が苦手。音韻処理も苦手。

***しかし運動感覚は抜群！**



Bくんの特性を本人や家族に説明し、Bくんにあった方法で支援する。

- ・言葉では入りにくいですが、視覚情報に体性感覚的なフィードバックがあると記憶として捉えやすい。
 - ・学習もサッカーのフォーメーションも大きなホワイトボードに大きく文字や動きを書き消してまた書き、運動感覚で覚える。
 - ・サッカーの監督にも情報共有し、試合前には必ず盤上でマグネットを使って動きを確認をした。
- *勉強もサッカーも具体的にどうすればいいかわかり、気が楽になり行き渋りが徐々に解消した。



② 特性理解 + 読み書きスクリーニングで進んだ事例

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ

読み書きが苦手な勉強が苦しくなったCくん

- 2年生で勉強につまづいているCくん。父と母から学習の仕方について意見が合わず、相談された。
- 漢字やカタカナよりもひらがなが苦手。まじめな性格なので、宿題もちゃんとやろうとしていたが、ゲーム等に逃げるようになり行き渋りも出てきた。
- 父は厳しく宿題を見ている。漢字も書けるようになりつつあるのだから、ひらがなもがんばれば絶対書けると励まし、100回書かせる。父は自分も勉強が苦手だった経験があり、息子にも力をつけさせたいと思っている。
- 母は、父が厳しいのでよけいにやらなくなったのではと思っている。Cくんは父が怖い（嫌いではない）ので泣きながらいうことをきいている。
- 父も母も、Cくんが勉強が苦手だということは理解している。父は努力させたいが、母はどうしたいのかはあまり考えていないため、父母で考えが対立する。



- ① Cくんの読み書きスクリーニング検査より、Cくんはカーブのある字体が特に認識しにくいことが判明。特に「手書き」のものは毎回カーブの形が変わりやすく同じ字に見えにくい。また、感情が豊かに反応してしまうタイプなので感覚刺激に対して自律神経が過剰に反応しやすくじっくり集中して取り組むのは超苦手。
- ② なぜ家族で考えが対立するか。父はこれまでも「ほどほど」が苦手な「0か100かの人」。ケンカにもなりやすいが、それでも家族としてうまくやってきたのは母が低登録（感覚プロフィールで低反応の要素が非常に高い人）という組み合わせだから。

- 100回書けば覚えるというやり方はCくんには負担の割に効果は低い。字を覚えるゲームアプリでリズムよく形を覚える方が、本人も楽しく集中できるので効果も高い。

OTが学校にデジタル教科書を使うことを提案し「読み」の問題に対応。→本人のドキドキ感がなくなった。

- 父の真面目さ、母のおおらかさは、お互いにある良さであることを再確認。父は自分の特性が理論的にわかり、時々家族から離れてクールダウンの時間を持つことにした。

その結果、家族のケンカが激減！ Cくんも学習に課題はあるものの、落ち着いて自分のペースで勉強できるようになった。

③ 特性理解 + 家庭環境の調整で解決した事例



Aくんの乱暴な言動が怖くて
学校に行きたくないと言うBくん

- 支援級で同じクラスの2人。Bくんの母は担任に「Aくんがうちの子をいじめないように注意してほしい」との訴えが何度も何度もあった。2人ともADHD。手が出やすい。
- 学校側はAくんに（道徳的な）注意をしAくんの母とも懇談した。Aくんの母も悩み、相談にみえた。
- しかし、担任に話を聞いたり、学校OTが様子を見ると、実際にはBくんは自分からちょっかいを出すことも多く、2人が仲の良い場面も多々見られる…。
- Bくんの母に学校での様子は伝えるが、全く納得してもらえない。対応したことを伝えても、また同じ繰り返しになり、母はとうとう校長にクラス替えをして欲しいと訴えた。

OTとふらっとのコラボ

学校は「ふらっと」に相談。ふらっとで母の話をしっかり聞く。
（Bくんの母はこれまでも家庭のことで何度も相談あり。
気になると止まらない方で精神手帳も取得している。）

- Bくん母子は互いに愛情深い（情緒豊か）。特に母は小さな不安でもドキドキするし、欲しい反応はしっかり返って来ないと安心できない。
- 母は心配するのは得意。でもできたことを一緒に喜んだり前向きな話は苦手。そのため気になっているAくんの話題に一番強く反応してしまう。そして母は解決しないと不安が消えない。
- AくんとBくんは、日常の中で日々2人で人との関係や距離感を学んでいく関係。Bくんが怖いと話すのは嘘ではないが情緒が豊かであることと感情コントロールがまだ幼いことによる。今2人は大切な経験をしている。今後身につけたいコミュニケーション力である。学校も母に振り回されないことが大事。

* この事例は母の情緒が安定すれば解決する問題と判断。

- 母は夫の愛情を感じると概ね安定している。夫に状況を話し、妻の不安に愛情を示した対応をしてもらうよう依頼。
- 学校は母に対し「ちゃんとBくんのことを見えます！任せてください！」という対応をする。
- 母が次々口にする問題は全てふらっとが受け止める。



ポイントはみんなが母に振り回されない肝っ玉力！
母に不安になる隙を与えない。

母が安定した。→ B君の登校渋りは消えた。

～うまくいかない事例から考える～



不登校が長引いて引きこもり状態になってしまったケース

* 共通点がある！

- ① 行き渋りのサインが出ているときに、「様子見」をしている時間が長く**専門家につなぐタイミングが遅くなった。**

様子見中、単発的にいい状態が見られると安心してしまい、専門家の見立てを入れないうまま月日が流れる。

保護者の生活状況等が良好でない場合、それ以外の原因について深めることがなかつたりする。

- ② 保護者（主に**母**）が**優しく、寄り添っている。**

子どもも母に気を使わせているのを理解しようという気持ちが強く、無理をさせない感じ、「行かなければ」という思いが強くなる。

お互い本音で話せなくなり、会話が減っていく。

共依存の関係になり、外部の介入がむずかしくなる。



- ・ 担任が「あれ？」と思ったときや、行き渋りが出てきたときに、相談してほしい。安易な**「様子見」はしない！**
- ・ 気持ちを外に出すのが大事！
暴言を吐いたり、教室から飛び出したり、言動が外在化している方が健康的。
内在化して表に出てこない方が重い。外在化するために**例えば口に出せなければ紙に書く。マイナスの造形。**
- ・ 家の生活状況は家族（主に母）の性格等によりずいぶん変わってくるもの。なので**母と子どもの性格や特性の相性をしっかり見る必要がある。専門家に頼る。**
- ・ 休んでも家で健康的な生活が送れているか。
ゲーム時間が大幅に増え、体が縮こまってしまうと心も動けなくなってしまう。だから**体を動かす機会を作る。**
- ・ 保護者（母）は、共感するうち共依存関係になってしまう。**子どもの客観的な状態が見えなくなっていることに気づいてもらい、未来に向けて考えられるようにする。**

対応で動かない事例→**新たなアプローチや予防策を考える。**

停滞する事例を動かしたい そこで導き出した新たな取り組み **パワーふらっと創設**

- ・ **頭で考えすぎて動けなくなるタイプ**の子どもと親。
- ・ とにかく家にもゲーム等が多くなって**体を動かさなくなる**子ども。
- ・ **エネルギーが下がってしまっている**子どもと親。
- ・ 行こうと思うのに**ドキドキが強く**て動けなくなる子ども。 etc...

つまり、自分の体のイメージができなくなっている！

体の感覚を失った状態（自我を失った状態）→自我を取り戻そう！



**あれこれ考えず、
とりあえず 体を鍛える、整える！**

自分の体のイメージ（自我）ができる
→ 心が動き始める → エネルギーが上がる
→ 気持ちが外へ向かう



ジムで筋力アップ！
エネルギー補充！

瞑想や呼吸法で整える！
ドキドキに対応できる力！



心と体は繋がっている！
体が動くと心も動く・・・
(エビデンスあり)



～事例から～ 作業療法士など専門家の視点が必要！

これ全部
ちがう理由かも！



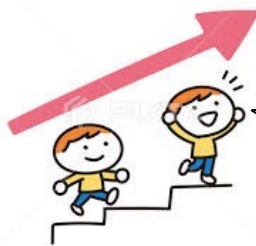
遊べないのは
友達がいない
せい？

今、起こっている行動を
発達や体の状態から
作業遂行能力から、
環境の影響から、
性格や特性から、
これまでの人生感から・・・
**いろんな角度から、その人の
ウェルビーイングに向けて見立てる！**



やる気がない
のは努力が足
りないせい？

行き渋り？
学校では問題ないよ



行動が遅いのは
発達のせい？

並べないのは
位置がわから
ないせい？



理解できない
のは聞く力が
ないせい？



勉強ができないの
は理解力が低い？

じっとしてい
るのが苦手だ
から・・・？



音が怖いのは
過敏のせい？



**見立てがちがうと
支援も違う！**



ご清聴ありがとうございました